

High D allele frequency of ACE I/D gene polymorphism in familial hypertension in Javanese Indonesian

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2012-10-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: フレディ, イリジャント メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001457

順天堂大学 博士(医学)

氏名 フレディ イリジャント

論文題名 High D allele frequency of ACE I/D gene polymorphism in familial hypertension in Javanese Indonesian

(ジャワ島のインドネシア人の家族性高血圧では ACE 遺伝子多型の D アレルが高頻度である)

論文内容の要旨

高血圧は環境因子や遺伝因子が複合的に関与することによって発症する多因子疾患であると考えられている。 レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系を構成する遺伝子多型は本態性高血圧の病因に影響を与えているかもしれない。 しかしながら、 ACE 遺伝子の D アレル所有することと高血圧の高い罹病率との関係は議論の残るところであり、 明らかになっていない。 さらに、 ACE 遺伝子多型には人種的なバリエーションが大きいことも明らかになっている。

本研究の目的は、 ジャワ島在住のインドネシア人において、 家族歴の有無によって高血圧患者を分類した場合における ACE 遺伝子多型の頻度を明らかにすることである。

Sleman-Yogyakarta 地域には 17 歳以上が 12,073 人、 そのうち 30~59 歳の範囲に 7,695 人が在住していた。 対象は正常高血圧、 前高血圧、 高血圧と 3 つの群に分類した。 その中からランダムに家族性高血圧患者 84 人と非家族性高血圧患者である 74 人を選択した。 ACE (I/D) 遺伝子多型は、 PCR 法でジェノタイプピングを行った。

家族性と非家族性におけるジェノタイプの頻度は、 各々 II (51.2% vs 77.0%)、 ID (43.9% vs 20.3%)、 DD (4.9% vs 2.7%) $p=0.002$ 、 アレルの頻度は、 I (73.2% vs. 87.2%)、 D (26.8% vs. 12.8%) $p=0.002$ であり、 家族性の高血圧患者では、 ID ジェノタイプ、 D アレルの頻度が高かった。 また、 男性でも女性でも家族歴を有する場合のジェノタイプの頻度は、 有さない場合と比して明らかに高頻度であった。